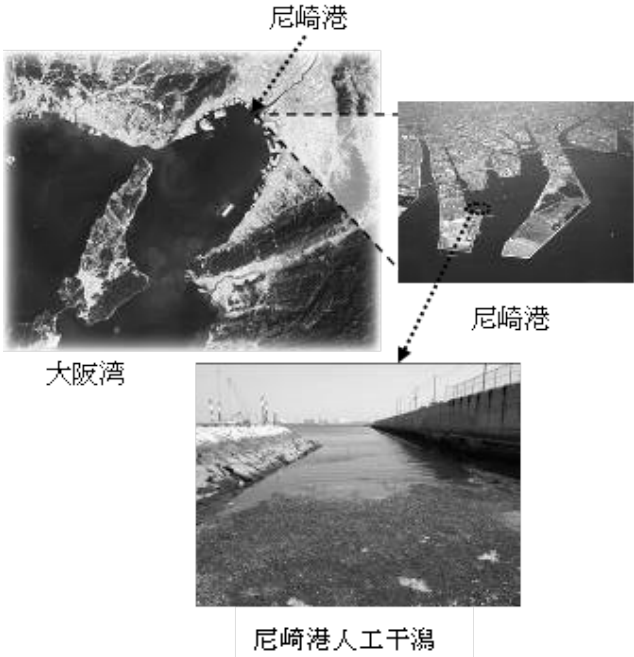


【2-8】

湾・灘の区分	大阪湾
取組の名称	人工干潟における栄養塩類無機化
事業期間及び事業費	事業期間:2013年度から2015年度 廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究費助成制度による助成 事業費:4,059千円
事業体制	公益財団法人ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
事業の背景・目的	富栄養化による悪影響があった海域でも、近年では栄養塩濃度の低下が危惧されるようになったため、人工干潟における物質循環を通じた栄養塩の供給の可能性を検討した。
事業場所の詳細	大阪湾奥の尼崎港内に造成された人工干潟 
事業内容	栄養塩(アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、磷酸性磷)およびクロロフィル a、底質中のベントスを測定し二枚貝類等による植物プランクトンの摂取、消化、排せつを通じた栄養塩の海水中への供給を検討した。
効果・影響のモニタリング手法(時期、場所、項目、把握すべき事項等)	時期:春季から秋季を主な調査時期とした。調査場所と項目は調査期間を通じて変えないが、台風、大雨等の突発的な天候の変化が起こった時は、モニタリングの順延等の配慮が必要となった。
モニタリングの留意点等	ベントスの種類数及び生存量、生息環境(水温、塩分量、溶存酸素濃度)の変化に注意すること。
取組による効果・影響及びその判断基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工干潟における二枚貝類を主とした生物の営みを通じた栄養塩の供給が認められた。</li> <li>大阪湾奥の富栄養化による悪影響が危惧される海域でも、生物生息場が確保できれば人工干潟からの栄養塩供給は期待できる。</li> <li>学会等を通じて発信することにより、干潟保全を始めとした海岸保全及び、生物による物質循環の重要性を伝えた。</li> </ul>
現状での課題	人工干潟の造成、維持管理に係るコスト負担
今後の予定等	人工干潟の適切な維持管理手法の開発、干潟の炭素貯留機能評価
取組事例についての発表資料等	第48回(2013(平成25)年度)水環境学会年会口頭発表要旨
情報提供元	公益財団法人ひょうご環境創造協会